

富山県民のウェルビーイング向上のため、地域課題をデジタル技術で解決！

## 「Digi-PoC TOYAMA（デジポックとやま）」実証実験プロジェクト成果報告会開催レポート



富山県は 2024 年 3 月 28 日（木）、県民のウェルビーイング向上の実現を図るため、先進的なデジタル技術を活用して地域課題を解決する「Digi-PoC TOYAMA（デジポックとやま）」実証実験プロジェクトの成果報告会を、富山市にて開催。実証実験に採択された 9 つのプロジェクトの成果について、それぞれの事業者による報告がありました。

この成果発表会はリアルタイムでオンライン配信も行われ、全国から多くの方が視聴しました。この記事では当日の様子を紹介します。



## 「ウェルビーイングの先進地域・富山」を実現するために

オープニングでは、主催者を代表して、富山県知事政策局長・デジタルソリューション推進委員会委員長の川津局長から挨拶がありました。



—川津局長

富山県では、成長戦略の柱に県民のウェルビーイングの向上を掲げ、「幸せ人口 1000 万～ウェルビーイング先進地域、富山～」の実現を目指しています。少子高齢化の局面で県民のウェルビーイングを上げていくためには、さまざまな社会課題を解決していく必要があります。地域課題をデジタルソリューションで解決する事例を創出しながら、新たなビジネスモデル構築にもつなげ、ウェルビーイングを高めるために行われているのが「Digi-PoC TOYAMA」です。

本日、ご報告いただく取組みや成果をどんどん波及させていくことで、富山県民の皆様が今まで以上に幸せに、そして富山県がもっと輝くようにしていきたいと考えています。

## 採択された9つの事業者が行った実証実験の成果を発表

昨年度に引き続き、2023年度も開催された「Digi-PoC TOYAMA」。2023年6月～7月に実証実験プロジェクトの募集をしたところ、全国から37件の応募があり、9件を採択。2023年8月から2024年3月上旬にかけて、それぞれ実証実験に取り組んできました。

この成果報告会では採択された事業者が1組ずつ登壇し、実施した実証実験の概要や結果、見えてきた課題、今後の展開などについて報告。それを受けての質疑応答も行われました。(以下、登壇順)



## 1 募集テーマ：自治体業務の効率化・働き方改革推進

生成 AI 及びマルチモーダル AI を活用した自治体業務の効率化

株式会社インテック 菊氏

### ・実証実験の概要

業務効率化ソリューション（書類 DX）として、生成 AI とマルチモーダル AI（映像、画像、音声、文章などの複数の情報を総合的に扱える AI 技術）を組み合わせた「書類のデータ化」「データ検索」「データ活用」の 3 本柱の機能を検証。富山県職員の業務の中で活用していただいた。

## ・実証実験の結果

広報課とスタートアップ創業支援課において「書類 DX」を利用、時間短縮など大きな業務効率化につながった。従来、データ検索で1件あたり最大30分ほどかかっていた作業が、最大10分に短縮。YouTube コンテンツのシナリオ作成では、これまで1本にかかっていた時間の半分～3分の1で、複数のシナリオを作成できるようになった。



## ・今後の課題、展開

「書類 DX」の業務利用について、生成 AI の回答は確認が必要となるものの、検索した資料の内容を活かし、複数パターンのアウプットを作成する作業においては大きな効果があることがわかった。



## 2 募集テーマ：教育の充実

特別支援教育におけるロボットを活用したソーシャルトレーニング

三菱総研 DCS 株式会社 西岡氏

### ・実証実験の概要

特別な支援を必要とする子どもたちを対象に、ロボット（NAO）を相手としたコミュニケーションによる、非言語を含むソーシャルスキルの効果的な向上や気持ちの変化を検証。しらとり支援学校と高岡高等支援学校において実証実験を行った。

本サービスは、Aldebaran の「NAO」を活用し、三菱総研 D C S が独自に実施。

### ・実証実験の結果

ロボットを使用したソーシャルスキルトレーニングの有用性に加え、今回の実証実験で行った動画による感情分析とその分析結果データは、生徒への理解に役立つほか、教員の指導効果の振り返りなど、日常の指導の中でも有用であることがわかった。



#### ・今後の課題、展開

課題、改善点として「ロボットの扱いやすさ、そして感情分析については対象者や場面などのデータを増やし、信頼性や妥当性を検証する必要がある」と有識者からアドバイスをいただいた。今後は、今回行った効果測定ツール一式（ソーシャルスキルチェックシート、生徒へのアンケート、画像による感情分析）の Web アプリ化、サービス化を進めていく予定。



### 3 募集テーマ：建設業のデジタル化・DX推進

衛星データの解析による被災箇所の見える化・点検業務の効率化

松嶋建設株式会社 松嶋氏

#### ・実証実験の概要

2023年6月に発生した豪雨災害前後の衛星データ解析により、災害復旧の迅速化や点検業務の効率化を目的とする「検知型 Web 地図システム」を作成。使用する衛星画像は光学画像と SAR 画像(※)の2種類。画像解析は富山県立大学工学部の学生が担当した。

※SAR 画像とは、マイクロ波の反射強度を表す白黒画像のこと。光学画像（目視のイメージに近い画像）と比較すると、撮影に天候の影響を受けにくい。

## ・実証実験の結果

山岳地すべりの検知においては、斜め方向から撮影する SAR 画像はあまり適さないなど、光学画像と SAR 画像のどちらが適しているかは被災地や災害種類によって異なることがわかった。



## ・今後の課題、展開

課題は、アプリへの反映までに 10 日間を要すること（衛星画像の購入から納期までに 8 日間、さらに解析に 2 日間）。しかし 2024 年 1 月に発生した能登半島地震をきっかけに、衛星画像のオープンデータ化が進み、購入から納期までの期間が短くなってきた。今後は解析だけでなく、GIS（地理空間情報）を活用した見せ方を考えていきたい。



#### 4 募集テーマ：建設業のデジタル化・DX推進

公共施設の点検保守業務の効率化

スパイダープラス株式会社 廣瀬氏

##### ・実証実験の概要

施設の各種点検業務や不具合管理をデジタル化。報告書の作成時間や、管理者と作業者

間での情報共有コストを削減することにより、技術職員の負荷低減と措置対応速度の改

善度合いを検証。和田川ダムと富山県国際健康プラザにおいて実証実験を行った。

この実証実験では、スパイダープラスが開発・提供している、施設の維持管理向けの機能「S+Maint（エスプラスメンテ）」「S+Report（エスプラスレポート）」を、実証先のニーズや業務内容・フローに適した形にカスタマイズした。

## ・実証実験の結果

業務量の可視化、点検管理業務、帳票の電子化にソリューションを活用。業務時間として10～20%の削減ができただけでなく、管理の質については、両施設ともリアルタイム共有によるコミュニケーション・利便性向上の効果に最も高い評価を得た。



## ・今後の課題、展開

所内外への回覧がまだ紙作業という点が、今後の業務改善のポイント。SaaS化などによるコスト削減や、試行機会の創出などが、これからのサービス利用の拡大に不可欠となる。



## 5 募集テーマ：製造業のデジタル化・DX推進

中小製造業におけるDXソリューション導入による業務効率化

富士通 Japan 株式会社 堀田氏、米澤氏

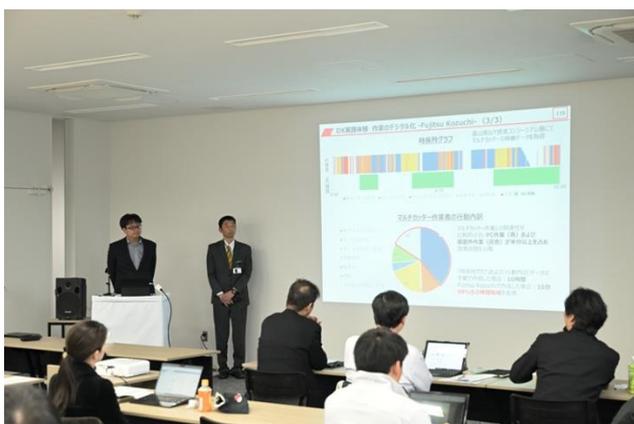
### ・実証実験の概要

DX推進プロセスとして、まず富山県内の中小製造業3社を対象にヒアリングを実施し、多様な観点から課題を抽出。その後、DXソリューションによる実践環境を構築し、効果検証までの体験を1ヶ月間提供した。今回の実証実験においては、インタビュー実施企業3社のうちの1社であるTSK株式会社様において、DXソリューションによる「作業の見える化」を行った。

提供した富士通の DX ソリューションは、行動分析機能が含まれる「Fujitsu Kozuchi for Vision (フジツウ コヅチ フォー ビジョン)」と「COLMINA 画像認識・異常検知 AI」です。

### ・実証実験の結果

設置されている既存の監視カメラ映像を活用し、1 日分の作業実績の時系列データおよび行動の内訳データを約 10 分で作成。また画像認識・異常検知 AI による位置ズレ検知は 100%の正解率となった。



### ・今後の課題、展開

2024 年度のステップとして、TSK 株式会社様にはさらに深掘りをした実証実験を実施する予定。また、ヒアリングに協力していただいた株式会社山口技研様、株式会社ヤマシタ様に対しては、今回の実証実験を元に、より導入効果の高い実証を行うこととしている。



## 6 募集テーマ：製造業のデジタル化・DX推進

中小製造業におけるDX推進による付加価値向上

株式会社フォーバル 広幡氏

### ・実証実験の概要

経営情報（ヒト・モノ・カネ・情報・時間）の可視化ツールである、経営情報分析プラットフォーム「富山県広場（きづな PARK）」を開設。滑川市内の製造業5社に対し、DX経営の専門家が専任者として伴走型で支援、自立化を目指す。29の設問に答えてい

ただき、「DX の推進体制」「デジタル技術の活用状況」「人材育成状況」「ビジネスモデル自体の環境」の観点から経営状況を診断し、スコア化する形で評価を行った。

### ・実証実験の結果

業務効率改善など、それぞれの企業の状況に合わせたテーマに沿って、支援を実施したところ、すべての企業で「DX 進捗度診断スコア」が向上。アンケート結果にも満足度の高さが現れており、5 社全てが「今後も DX 経営を進めるうえで、外部人材（専門家）によるサポートや支援は必要になるので、支援制度があれば、是非活用したい」と回答した。2024 年 2 月には実証実験のために開設した「富山県広場（きづな PARK）」を活用した「可視化経営と DX 推進に関するセミナー＆ワークショップ」も開催。25 社が参加し、うち 2 社が有償での継続支援を希望した。



### ・今後の課題、展開

「富山県広場（きづな PARK）」を 2024 年 4 月以降も常設することを決定。DX 経営の

状況を可視化する県内の企業を増やし、それをベースに伴走型の支援サービスをさらに  
広く展開していく予定。



## 7 募集テーマ：企業の脱炭素経営推進

中小企業等の CO<sub>2</sub>排出量の可視化・削減

e-dash 株式会社 清野氏

### ・実証実験の概要

脱炭素化の取り組みに関心があるものの、「人手不足・知識不足」により実行に移せな

い企業に対して、CO<sub>2</sub>排出量の可視化、報告、削減を総合的にサポートするサービスプラットフォーム「e-dash」を提供。スキャンした電気やガスなどの請求書をクラウド上にアップロードするだけで、CO<sub>2</sub>排出量を可視化。その可視化したデータを元にCO<sub>2</sub>排出量の削減のための提案を行う。

### ・実証実験の結果

20社の参加企業のうち70%は製造業で、CO<sub>2</sub>排出量の可視化要望が高いことが伺えた。CO<sub>2</sub>排出量の可視化の後、15社が削減提案を実施。そのうち5社が、今後も継続利用を希望・検討している。



### ・今後の課題、展開

可視化から削減提案までは好評だったが、取組み継続の意識浸透については改善の余地あり。取組み企業の認証制度や表彰制度など、継続に対するモチベーション向上のための施策が重要と言える。



## 8 募集テーマ：公共交通の満足度向上

バスロケーションデータの解析による最適なバスダイヤ作成

株式会社トラフィックブレイン 太田氏

### ・実証実験の概要

バスロケーションシステムの走行実績データに基づき、遅延の少ないダイヤを自動生成する、路線バスの自動ダイヤ改正支援システム「Dia Brain (ダイヤブレイン)」を活用。

実証実験では、富山地方鉄道バス、加越能バスの中でも遅延の大きい系統に対し、実施する。

## ・実証実験の結果

前提となる「とやまロケーションシステム」のログデータはGPSの測位間隔が20秒などと精度が粗いため、発着記録のデータが大きく欠損。緯度経度の生ログの提供を受け、さまざまな方法で欠損部分を補い、新しいダイヤを生成できた。ダイヤ改正は2024年4月1日であるため、あくまで計算上の数値となるが、富山地方鉄道バスでは5分以内の遅延の割合が19%から53%へと、大きく改善が見込める。



## ・今後の課題、展開

まずは4月のダイヤ改正の効果測定を行いつつ、「とやまロケーションシステム」の制度改善について適宜助言を行う予定。



## 9 募集テーマ：観光地の利便性向上

観光地におけるスムーズな駐車誘導システム構築

株式会社センサーズ・アンド・ワークス 堀江氏

### ・実証実験の概要

デジタルサイネージの案内板と Web サイトの連携で、観光客にとってわかりやすい空  
車情報を提供。さらにセンサ IoT を設置して駐車状況を把握することで誘導業務にかか  
る負担を軽減する。実証フィールドは、「立山黒部アルペンルート」の出発点である立  
山駅周辺の駐車場群。これまではデジタル化されていない案内板が設置され、基本は人

海戦術で誘導・案内が行われていた。

## ・実証実験の結果

駐車場には電源がなかったため、ソーラーパネルを設置し、低電力で駆動する仕組みを構築した。現場の観光客にヒアリングをしたところ、93%がデジタルサイネージの案内板設置を評価。また誘導業務の負荷については、45%もの軽減が見込まれた。



## ・今後の課題、展開

今回の実証実験で得られた成果を、立山駅周辺と似た状況にある観光地のほか、期間限定のイベント・催事における駐車場や管理コストがかけられない駐車場、または有料化を検討している駐車場の事前調査に活用していきたい。

## チャンスがあり、夢を叶えることができる富山県

「Digi-PoC TOYAMA」に参加した9つの採択事業者からの発表が終わり、新田八朗富山県知事から閉会の挨拶がありました。



——新田知事

どの実証実験プロジェクトも富山県民のウェルビーイングを高めたいという熱意があふれ、とても良いものだと感じました。参加してくださった事業者の皆様には、今回の実証実験の成果を活かし、社会実装に向けて引き続き取り組んでいただければと思いま

す。

県としては、新年度に、立山駅周辺の駐車場における駐車場管理システムの実装支援を行います。また、中小企業がデジタル技術を活用して生産性を向上していくための補助金の創設、さらには県庁業務の効率化に向けて生成 AI を活用した業務支援システムの構築、ダムの点検管理業務を効率化するメンテナンスシステムの導入など、今回得られた成果を実装につなげていくこととしています。

今回の実証実験の成果が、課題を解決するソリューションとして活用され、地域の活性化や成長につながっていくと思うとワクワクします。これからも「チャンスがあり夢を叶えることができる富山県」で、新しい未来を一緒につくっていきましょう。

成果報告会の終了後には交流の場が設けられ、採択された9つの事業者の皆様と、新田知事、富山県デジタルソリューション推進委員会のメンバーの間で、成果発表や質疑応答では伝えきれなかったことなど、さまざまな意見交換が行われました。





## 今年度の「Digi-PoC TOYAMA」の成果が社会実装化へ

新田知事の挨拶に「今年度の『Digi-PoC TOYAMA』の成果を活かして、県内で社会実装に取り組み、さらにネットワークを広げるなど、ビジネスの拡大・発展へとつなげていただきたい」とありました。デジタル先進地域・富山県に、全国からますます注目が集まりそうです。